

ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)によるスーパービジョンを体験してみませんか？

ソーシャルワーカーの仕事の支援ツールはソーシャルワーカーである「私自身」で、まさに「身一つ」といえます。一方で現場の業務は一見するとソーシャルワーカーでなくても出来ることの連続だったりします。

ソーシャルワーカーだからこそ行っている意味はどこにあるのか？それはその「価値」が何に拠って立っているかどうかにかかっています。しかし、私たちは所属組織に求められる役割との間で葛藤することも多く、悩み迷い、揺れる日々を過ごしていてもいます。改めて自分自身を振り返り、持つべき「価値」を確認していく機会を持つことは、多忙な日々の中では難しいのではないのでしょうか。

ソーシャルワーカーが自身を振り返り、成長していくことに有効な方法の一つがスーパービジョン(以下「SV」)です。SVは、同じソーシャルワーカー同士であるスーパーバイザー(以下「SVR」)とSVを受けたいスーパーバイザー(以下「SVE」)との間で行われます。SVはSVRが一方向的にSVEに「教える」「指導する」学習プロセスではありません。SVEが向き合うクライアントとのかかわりを介して、SVRとSVEの双方向的なコミュニケーションを前提に、SVEが気づきを得ることでSVEのソーシャルワーカーとしての成長を目指します。

日本精神保健福祉士協会では、資質向上の一環として「認定スーパーバイザー養成研修」(以下「SVR 養成研修」)を実施しています。SVR 養成研修修了者は日本精神保健福祉士協会に登録され、後進のソーシャルワーカーの成長に資する役割を担います。研修の構成は基礎編(3日間)終了後に実践編が約1年間かけて実施されます。

今回の募集は、SVR 養成研修実践編のSVEになります。1名のSVE公募のため、応募者が複数の場合は書類選考とさせていただきます。ご応募お待ちしております。

【SVR:プロフィール】

名前:今村 まゆら

所属:特定非営利活動法人 NPO 狛江さつき会 地域生活支援センターリヒト

経歴:大学卒業後一般企業に数年勤務後、アヤマ病院(現 大石記念病院)デイケア室に勤務。2002(H14)年かまた生活支援センターへ入職し施設長、相談支援専門員、地域生活安定化支援事業に従事。2015(H27)年4月より地域生活支援センターリヒトにて東京都地域移行体制整備コーディネーターを3年間専任で務めた。その後相談支援専門員として計画相談、地域移行・地域定着支援、自立生活援助に携わり現在に至る。精神科病院からの退院支援、退院後の地域定着支援業務にかかわり続けている。

【募集要項】

目的:1)SVEのソーシャルワーカーとしての成長のため

2)第17回認定スーパーバイザー養成研修の課題達成のため

募集対象者:精神保健福祉士として実務に携わり、SVEとなってソーシャルワーカーとしての成長を望む方

年齢・性別:不問

経験年数:新人からおおむね実務経験10年程度まで

SV期間・回数:約9ヶ月間の間で6回以上(1回90分)の面談を予定(オリエンテーションは除きます)

日程:希望を伺い相談の上決定します。

場所:希望を伺い相談の上決定します。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為 Zoom などオンラインも考慮します)

費用:無料 (SVEご自身にかかる交通費、資料作成にかかわるコピー代等は除きます)

その他:初回の面談(オリエンテーション)で、SVをどのようにすすめるのか話し合い、合意した内容で契約書を取り交わします。SVは次回以降から始めます。

※ OJT(OnTheJobTraining)(所属機関から求められる職務遂行に必要な知識、技能、態度等の能力向上・改善を目的とした教育訓練)や、事例検討(クライアントに対する具体的支援方法の検討)はSVとは区別され、行いません。

※秘密厳守いたします(課題提出のレポートには所属や個人が特定される記載はいたしません)

申込締切:2021(R3)年9月15日(水)

申込・お問い合わせ先:E-mail supervision@tokyo-psw.com

必要事項 お名前、所属機関、ご年齢と経験年数、スーパービジョン希望理由

